

宝石の世界 その16

<パール> その3

その他の真珠

■ 淡水パール

イシガイ科淡水二枚貝のイケチョウガイ、ヒレイケチョウガイなどから産出する真珠で紫、オレンジ、ピンク、白などバリエーション豊かな色が特徴です。養殖の歴史はかなり古く、11世紀には中国では鉛などの型を使用してカラスガイの半形真珠が生産されていました。その後、18世紀以降にはヨーロッパ諸国でも本格的な養殖の実験が行われてきました。



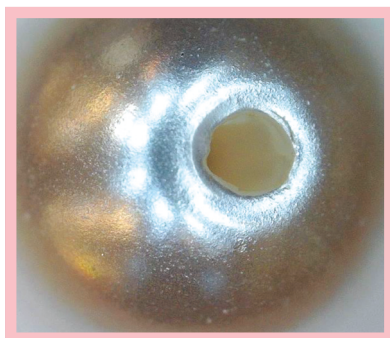
日本では明治末頃から淡水真珠の養殖が試みられていましたが、1930年代に琵琶湖でイケチョウガイによる本格的な養殖事業が開始されました。第二次世界大戦中の一時期中断を経て1970年代にかけて6~7トン程度輸出されていましたがその後水質汚染などで衰退し、現在は霞ヶ浦で小規模に行われています。現在の淡水パール市場では中国の長江沿いで養殖された真珠がほぼ市場を席捲しており価格・質ともに他を圧倒しております。

■ 養殖の核について

養殖真珠の核には主にアメリカミシシッピ川流域の淡水のイシガイ科のドブガイが用いられています。近年この核の高騰により大型のシャコ貝などが使用されるケースがあります。シャコ貝は硬いため孔あけ時に真珠が割れたりドリルが壊れたりする弊害があります。ワシントン条約に抵触する恐れもあり代替としては問題があります。

■ 模造パール

イミテーション、フェイクパールとも呼ばれ、様々な種類があり価格も多様です。プラスチック、貝核、ガラスなどにパールエッセンスをコーティングします。コーティングの際、穴口を塞いで塗布し、その後塞いでいた棒などを引き抜くため穴口のへこみなどの歪みは一般的です。また、模造のネックレスの場合はクラスプに地金刻印がないことも多く注意が必要です。



穴口の比較 左／模造 右／アコヤ真珠